



守口小だより

第19号：令和4年10月27日

守口市立守口小学校 横山美香

教育目標：自ら学ぶ意欲にあふれ、共に高め合い、心豊かで未来を切り拓く子どもの育成

みんなといっしょに 伸びていく 大きな空へ
ジャンプ ジャンプ ジャンプ!

守口市立守口小学校 創立150周年

～学力向上に向けた取り組み～

4月19日に実施された、全国学力・学習状況調査とすくすくウォッチ(小学生すくすくテスト)の調査結果を学校だより第17号と第18号でお伝えしました。これらの調査の結果は、特定の学力や学習状況の一部と受けとめており、学校の教育活動の一側面でしかないと考えています。

第19号では、これらの調査結果を踏まえ、守口小学校の学力向上に向けた取り組みについてお伝えし、できることを学校と家庭が連携して一緒に考えていく機会にしたいと思います。

◎調査の結果より

成果



- ・学習に対する意識では、「課題解決に向けて自分で考える」や「話し合い活動」「工夫して発表する」のについての肯定的回答をしている児童の割合が昨年度よりもかなり高く、授業改善の取り組みの成果が表れている。

課題



- ・国語・算数・理科とも記述式の問題の正答率が低い。
- ・国語では、「書くこと」の正答率が全国や大阪府よりも低く、課題が見られる。
- ・算数では、「図形」領域の正答率が低く昨年度に引き続き課題である。
- ・「図形」領域はプログラミングと絡めた問題だったので、正答率の低さがどちらに起因するのは、今後分析をさらに深め、課題改善の取り組みを進めていく必要がある。
- ・理科では、実験結果の解釈やまとめの検討を通して、自分の考えを持ち、記述することに課題が見られる。
- ・1日当たりの勉強時間や読書の時間については、全くしない児童の割合が昨年度より増えている。

◎今後の取り組み

これまでの取り組みの継続

- ・読書の活動に関する取り組み(長休時の図書室の開放、リーディングスタッフによる貸出し・読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせなど)を継続していく。
- また、授業での学校司書との連携も継続していく。



「書く」活動を進める

- ・書く力を高めるため、自分の書いた文章を伝え合う活動を積み重ね、自分の文章のよさに気付かせる取り組みを進める。
- ・モジュールの時間等を活用し、条件に合わせて書く経験やプログラミング的思考の経験を積ませる取り組みを進める。

ICT 機器の活用

- ・タブレット端末を活用して、「個人で考える → 全体で交流・共有 → クラスで深める」など、考えをまとめたり、活用したりできるように、効果的な活用についての授業づくりに努める。
- ・タブレット端末を活用した家庭学習ができるように課題の工夫に努める。



家庭での自学自習力を高める

- ・家庭で、宿題以外の勉強ができるように自学自習ノートの取り組みをさらに進める。
- ・図書室の掲示板に自学自習ノートの掲示スペースを作り、定期的に紹介していく。

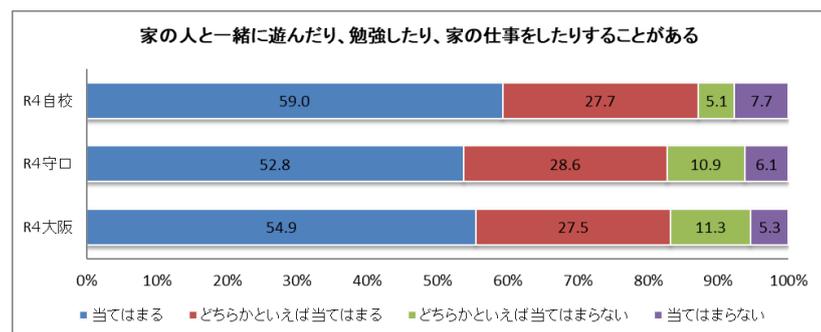
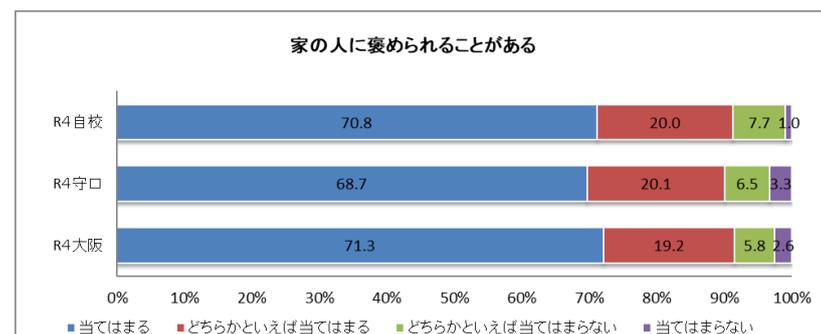
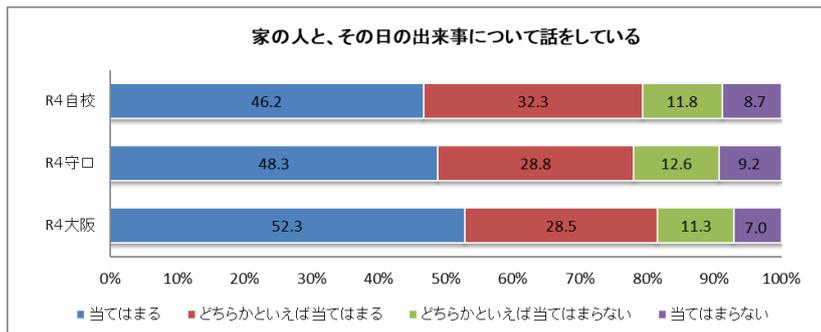
◎家庭へのお願い

学校と保護者が相談し合える関係づくり

- ・学校だより等で学校での取り組みを発信していく。
- ・学校と家庭が連携を深めていく。



《すくすくウォッチのアンケートより》



規則正しい生活の継続

- ・毎日、朝ごはんを食べる、毎日同じくらいの時刻に寝る・起きるなど、規則正しい生活を送るようにする。
- ・ゲーム機、タブレット、スマートフォン等で、動画を見たり、ゲーム等で遊んだり、SNS をしたりする時間が長時間にならないように、使用する時間を決める。

学習の進捗や状況を共有する

- ・毎日の宿題のチェックをする。
- ・家庭で宿題の確認をする。（音読を聞く、課題ができてきているかなど）
- ・自分で決めた自学自習ができるように一緒に内容を考える。

子どもと向き合う時間を確保する

- ・ねばり強く子どもの話を聞く。子どもにねばり強く話をさせる。（最後まで、分かるように話をさせる）
- ・普段の生活の中で、子どもに考えさせるような言葉を投げかける。（「どうして？」や「なぜ？」など）

